

# 平成22年度 “新”家庭教育宣言 アンケート結果報告（単位PTA）

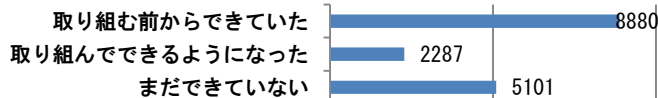
回収率 93%

## 問1(1)：あなたのお子さんの状態について

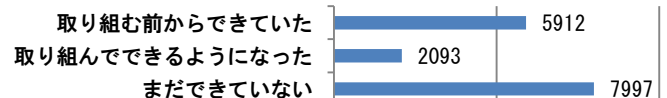
(単位：人)

項目	“新”家庭教育宣言に		
	取り組む前からできていた	取り組んでできるようになった	まだできていない
① きまった時間に寝る	8880	2287	5101
② 自分ひとりで起きる	5912	2093	7997
③ 朝、顔を洗う	12739	1644	1987
④ 朝ごはんを毎日食べる	14937	780	630
⑤ 歯をみがく	13474	1598	1257
⑥ 自分から進んで勉強する	9063	3183	4076
⑦ 家族に「おはよう」「おやすみなさい」のあいさつができる	12924	1692	1788
⑧ 近所の人にあいさつができる	11663	2271	2367
⑨ 後かたづけができる	7267	3403	5637
⑩ 自分から進んで手伝いをする	6718	4140	5501
⑪ 学校にたのしく行ける	14243	1190	832
⑫ ものを大切にする	8913	2698	4676
⑬ きらいなものでも食べられる	8723	2610	4896
⑭ 親の話をしっかりと聞ける	9358	3025	3861
⑮ 悪いことをしたとき、正直に言える	9709	2769	3821
⑯ 途中であきらめないで努力できる	8319	3121	4767
⑰ 学校であったことをよく話す	11421	1925	2857

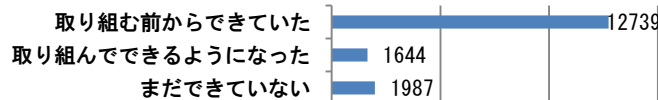
### ①きまった時間に寝る



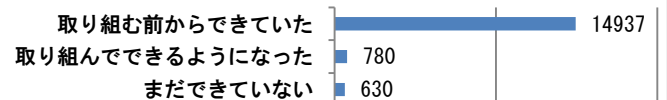
### ②自分ひとりで起きる



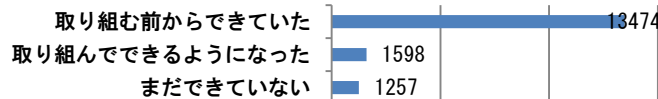
### ③朝、顔を洗う



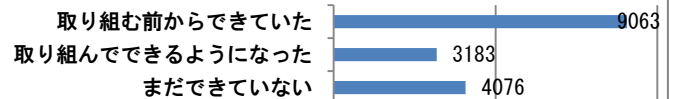
### ④朝ごはんを毎日食べる



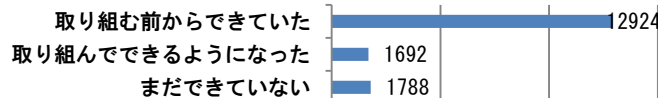
### ⑤歯をみがく



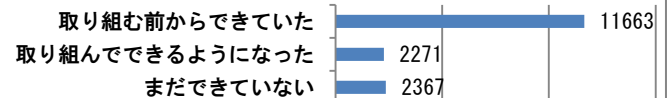
### ⑥自分から進んで勉強する



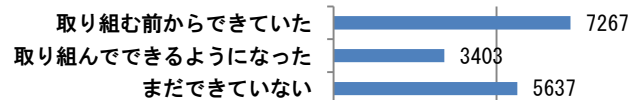
### ⑦家族に「おはよう」「おやすみなさい」のあいさつができる



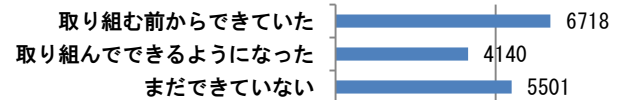
### ⑧近所の人にあいさつができる



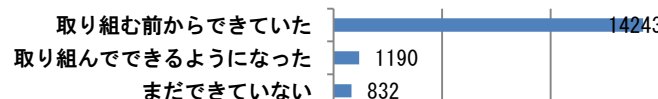
### ⑨後かたづけができる



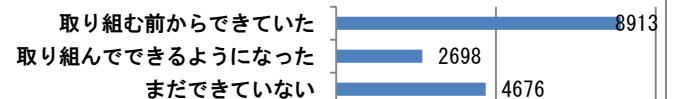
### ⑩自分から進んで手伝いをする

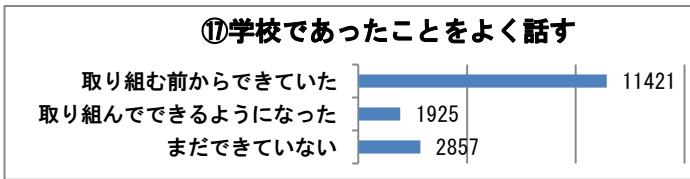
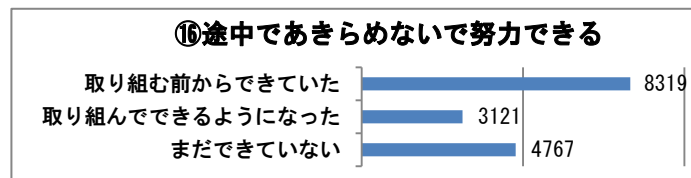
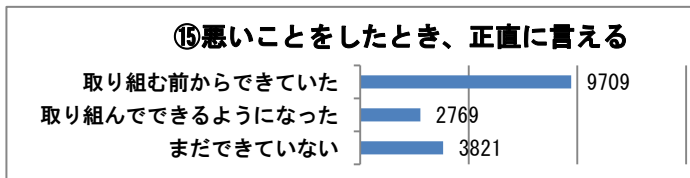
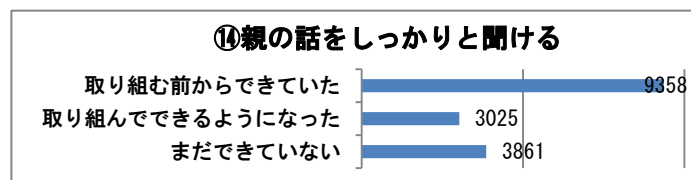
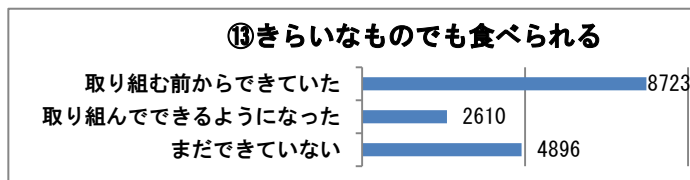


### ⑪学校にたのしく行ける



### ⑫ものを大切にする





**(2) 上記の17項目以外で、「新」家庭教育宣言」に取り組んでできるようになったこと**

- ・ 生活を見直すきっかけになった。
- ・ 積極的にお手伝いをするようになった。
- ・ テレビやゲームの時間を決めるようにした。
- ・ ノーゲーム、ノーテレビの日を実行できた。
- ・ 家族でよく話をするようになった。
- ・ 家族に優しくなった。
- ・ 子どもに自主性がでてきた。
- ・ 取り組んでいる期間中だけがんばっている。
- ・ ついつい忘れてしまう。
- ・ 新家庭教育宣言を知らない。

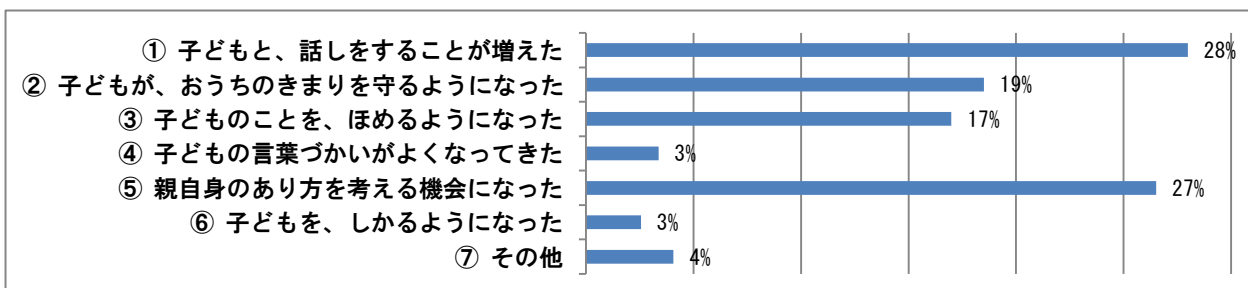
**〈考察〉**

1. 「取り組む前から出来ていた」の17項目中13項目で昨年度より平均2.3ポイントの改善が見られた。改善の理由として、これまでの「新」家庭教育宣言の取り組み効果もあげられるものと思われる。割合が高い(8割の以上)項目は、『朝ごはんを毎日食べる(91%)』『学校に楽しくいける(88%)』『歯をみが(83%)』で昨年度とほぼ同様である。他の項目も含め、全体的な傾向としては大きな変化はない。
2. 「取り組んでできるようになった」では平均で15%が「できるようになった」と回答しており、昨年度の14%と比べて大差はない。項目別で割合が高いのは、昨年度と同様に『自分から進んで手伝いをする(25%)』『後かたづけができる(21%)』『自分から進んで勉強する(20%)』と続いており、それ以下の項目でも同じ傾向を示している。
3. 「まだできていない」の全体平均は22%で、昨年度の23%と大差はない。最も高い割合を示したのは、『自分ひとりで起きる』(50%)である。また、3割を超えた項目は、『後かたづけができる(35%)』『自分から進んで手伝いをする(34%)』『決まった時間に寝る(31%)』『嫌いなものでも食べられる(30%)』であり、昨年度と同様な傾向を示している。

**問2：「新」家庭教育宣言」に取り組んで、よかったことは？**

① 子どもと、話しをすることが増えた	7588
② 子どもが、おうちのきまりを守るようになった	5016
③ 子どものことを、ほめるようになった	4607
④ 子どもの言葉づかいがよくなってきた	917
⑤ 親自身のあり方を考える機会になった	7188
⑥ 子どもを、しかるようになった	694
⑦ その他	1102

(単位：人)





## 〈考察〉

今後必要と考えている家庭教育の内容としては『心の教育(18%)』、『子どものしつけ・規範教育(16%)』、『命の教育(15%)』、『金銭教育(11%)』、『親の教育力向上(10%)』と続いている。昨年度の『子どものしつけ・規範教育(29%)』、『金銭教育(20%)』、『親の教育力向上(17%)』、『IT教育(13%)』の順位・比率とはだいぶ異なっている。しつけや金銭感覚などの生活に密着したテーマもさることながら、心や命など自尊感情を高めるためのテーマにより必要性を感じている傾向が強い結果が出ているので、今後の取り組みの参考にしていける必要がある。

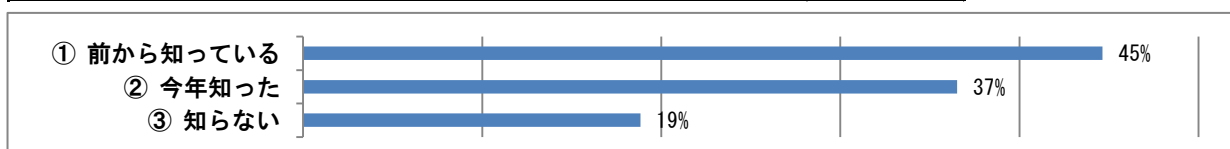
## その他

- ・ 親の教育力向上
- ・ 命の教育
- ・ 心の教育
- ・ 食育
- ・ IT教育
- ・ 平和授業
- ・ 体験学習

## 問5：「“新”家庭教育宣言」についての認知度

(単位：人)

① 前から知っている	6820
② 今年知った	5580
③ 知らない	2878



## 〈考察〉

1. 本アンケート調査の対象は推進活動費を受けた単Pであるので、このデータが全単Pの認知度を示している訳ではないが、『前から知っている(45%)』、『今年知った(36%)』、『知らない(19%)』の回答からは、県Pの目玉の事業として6年間継続して取り組んできた割には、認知度は決して高いとは言えない。なお、昨年度調査でも、項目順に49%、35%、16%とほぼ同様な傾向を示している。
2. 調査対象の中には、純然たる新規宣言単P、一時中断して再開した単P、継続の単Pなどいろいろな単Pがある一方で、“新”家庭教育宣言という言葉を意識しないまま実際の活動自体は行っている保護者も多いと想定されるので認知度を把握するには新たな調査方法も検討していく必要がある。
3. 認知度アップには宣言単P数を増やすことが重要であるが、加えて単P内の全保護者が“新”家庭教育宣言への意識を高めることも重要であり、研修会や報告会等により啓発活動等を積極的に実施していく必要がある。

## 《保護者の声より》

1. 子どもがやったことに対して、まず親が経験してからアドバイスをするようになった。次第に子どもも親のアドバイスを素直に聞き入れるようになり、その話題で議論するようになった。
2. “新”家庭教育宣言は知っていたが、よく読むと大切なことばかりと思った。しっかり1つずつクリアしていきたい。
3. こういうことをいちいち取り組まないといけない時代なんですね。子どもというより、親や大人がもっと信念と愛情をもった行動をするべきです。
4. 昔と違って今の恵まれた環境で育った子どもたちは、食べれて当たり前!! してもらって当たり前!! 等、感謝の気持ちが足りない気がします。他の国々の食べれない人や子どもが働いていること等、勉強だけでなく、そんなことも取り入れて欲しい(家でもたまに話している。)
5. 子どもが進んで行動したくなるようにするにはどうすればいいか、夫婦で話し合ういいキッカケになった。
6. 挨拶や靴を揃えるなど、子どもが小さい時から当たり前のことだと思って躡けてきたが、やはり大切で基本的な躡けだと再確認できた。
7. 面と向かって、親の気持ちを伝えたり、子どもの話を直接聞いたりするなど、親子で話をするのは小学校の時が大事だと思うので、家庭教育を大事にしていきたい。

## ※ 6市町村P連に対するアンケート集計結果

平成22年度からは市・郡・町・村PTA連合会での取り組みも始まり、現在6市町村P連で活動中である。単位PTAと同じ内容で事後アンケート調査を行った。回収率100%で、回答内容は単位PTAとほぼ同じで顕著な差異は得られなかった。このため6市町村P連アンケート結果についてはこの場での掲載を省略する。

なお、アンケートの回答にあたり、市町村P連からは次のような意見が出されているのでアンケートの内容や取り方について再検討が必要がある。

- ・ ノーメディアデーなどアンケート項目にないテーマで取り組んでいるため、答えられないものがある。
- ・ 市町村P連としての統一テーマに合うような内容の設問にすべきである。
- ・ 事務局で集計するのが実に大変である。